

現行計画における数値目標の達成状況

		H27年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R8年度 (中間年)	R13年度 (目標年)
①総排出量 (トン)	計画		368,269	368,596	369,790	368,788	367,791	363,000	354,000
	実績	367,489	351,103	352,981	345,122	334,900			
	達成		○	○	○	○			
②焼却処理量 (トン)	計画		247,820	242,064	242,698	241,861	241,027	241,000	235,000
	実績	252,836	243,725	240,742	242,965	235,156			
	達成		○	○	×	○			
③再生利用率 (%)	計画		33.8	35.3	35.4	35.4	35.5	38	38
	実績	32.6	32.6	33.4	31.6	32.1			
	達成		×	×	×	×			
④最終処分量 (トン)	計画		22,867	22,321	22,386	22,303	22,221	13,000	13,000
	実績	21,450	19,739	20,055	18,396	17,397			
	達成		○	○	○	○			
⑤温室効果ガス 排出量 (トン)	計画		83,525	81,585	81,799	81,517	81,235	80,000	78,000
	実績	89,814	90,138	100,725	98,960	82,525			
	達成		×	×	×	×			
⑥家庭系ごみ排出量 【1人1日あたりの量】 (g)	計画		510	497	496	496	495	495	495
	実績	513	494	485	493	502			
	達成		○	○	○	×			

※「総排出量」は資源物を含み、「ごみ排出量」は資源物を除く

◇目標項目の令和2年度の状況

①総排出量・②焼却ごみ量

新型コロナウイルスの影響で、家庭系の総排出量及び焼却ごみ量は増加したものの、事業活動の縮小による事業系の総排出量及び焼却ごみの減少量の方が大きく、総排出量・焼却ごみ量が減少することとなった。

③再生利用率

新型コロナウイルスの影響で総排出量が減少する一方で、再生利用量が増加（特に事業系剪定枝など）したことが比率の上昇につながっている。

④最終処分量

焼却灰の再資源化量が増加していることなどにより低下している。

⑤温室効果ガス排出量

焼却ごみ中に含まれるプラスチック類の組成割合の減少などにより低下している。

⑥家庭系ごみ排出量

新型コロナウイルスの影響で、家庭系の総排出量が増加したことにより、数値が上昇している。

※総排出量内訳推移

	R 1	R 2	増減
家庭系	219,677	223,991	4,314
事業系	125,445	110,909	△ 14,536

※焼却ごみ量内訳推移

	R 1	R 2	増減
家庭系	169,662	172,755	3,093
事業系	73,303	62,401	△ 10,902